(10) 日光 (にっこう) 鉱山跡ー追記

自前のこの鉱山探査記を読み返していると、ＧＰＳであるガーミンの入手前の紹介文には多くの不案内があることに気がついていた。この鉱山跡はそのうちの１つである。梅雨のこの時期、３回にわたって現地を訪問した。報告書に追記する。

２０２０年６月、７月

図１　青色曲線がガーミンによる経路曲線である。車で玉生方面から４６１号を西行してきたならば、Ａ点で左折する。赤丸が鉱山跡である。

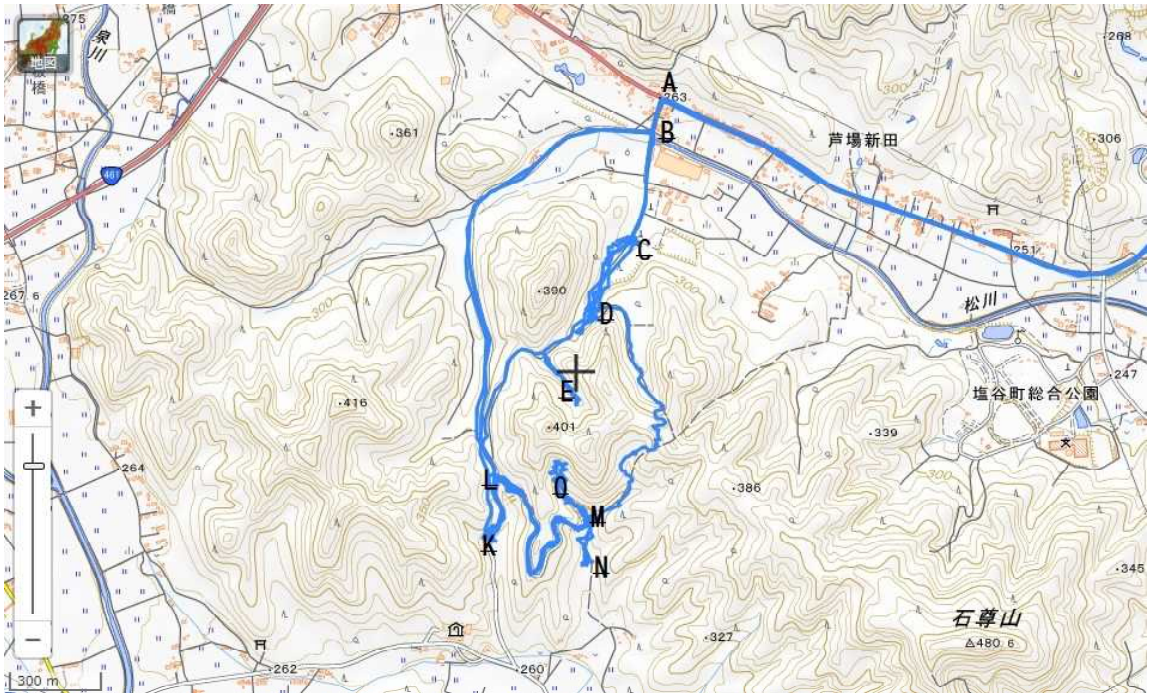

図２　図１の部分拡大図。Ｃ点は墓地近接の駐車場。車をおける。ここから徒歩で日光鉱山の北側の鉱山跡に入れる。なを、経路ログ曲線は数回分を重ね描いていることに留意すること。日光鉱山の南側の鉱山跡へは、Ｂ点で右折をし、村道をＫ点まで車で進むと、道脇に適当な広さの空き地があり、そこに車を駐車できる。南側鉱山跡への林道入口はＬ点であり、Ｋ→Ｌ→Ｍと徒歩で進んで行く。（Ｃ、Ｄ、Ｅ）が北側鉱山跡領域、（Ｍ，Ｏ、Ｎ）が南側鉱山跡領域である。

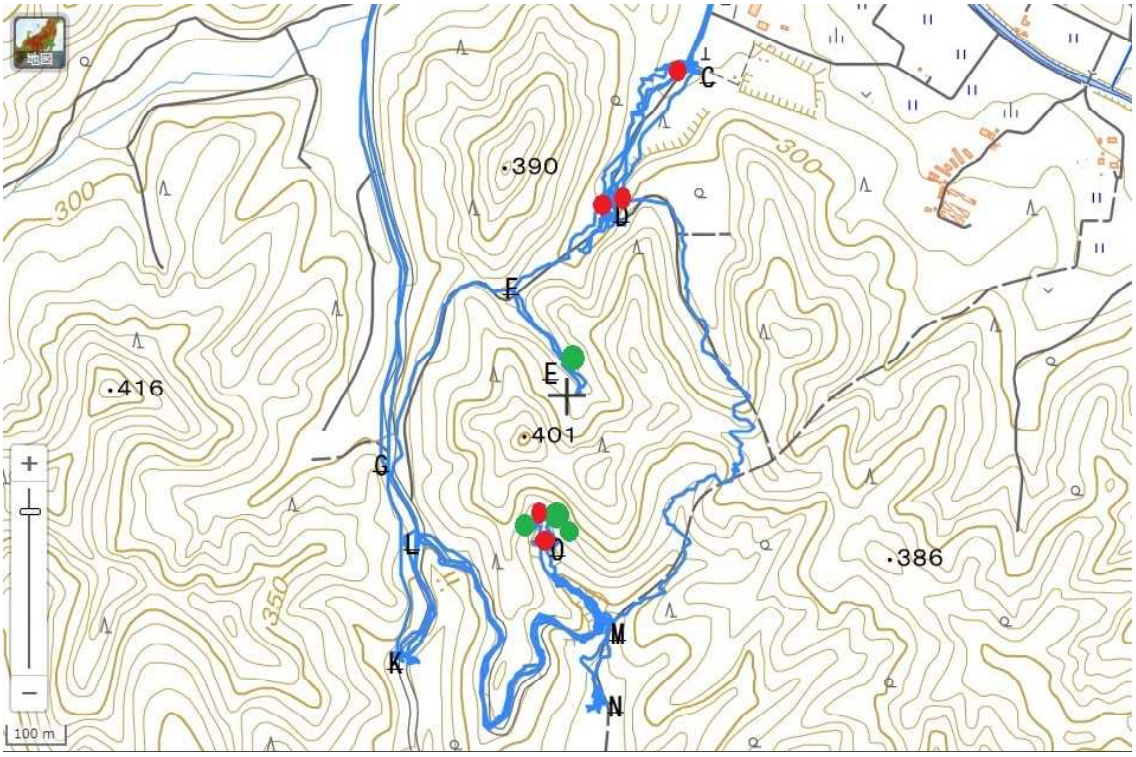

図３　図２の部分拡大図。Ｃ点近傍の赤点には石垣に大量の孔雀石が付着している箇所を現認した。写真１４、１５を参照。Ｄ点の赤丸２カ所でコンクリート基礎と石垣擁壁のある広いプラトーの鉱山施設跡を確認。Ｅ点では林道脇に坑口跡を確認、黄緑丸。Ｏ点近傍の解説は図４を参照。Ｍ点からＤ点までの北方向に延びている経路中では鉱山跡らしいものは何も確認できなかった。「探査」なので、余裕がある時には一帯を歩き回っている。Ｆ点→Ｇ点→Ｌ点もそれである。

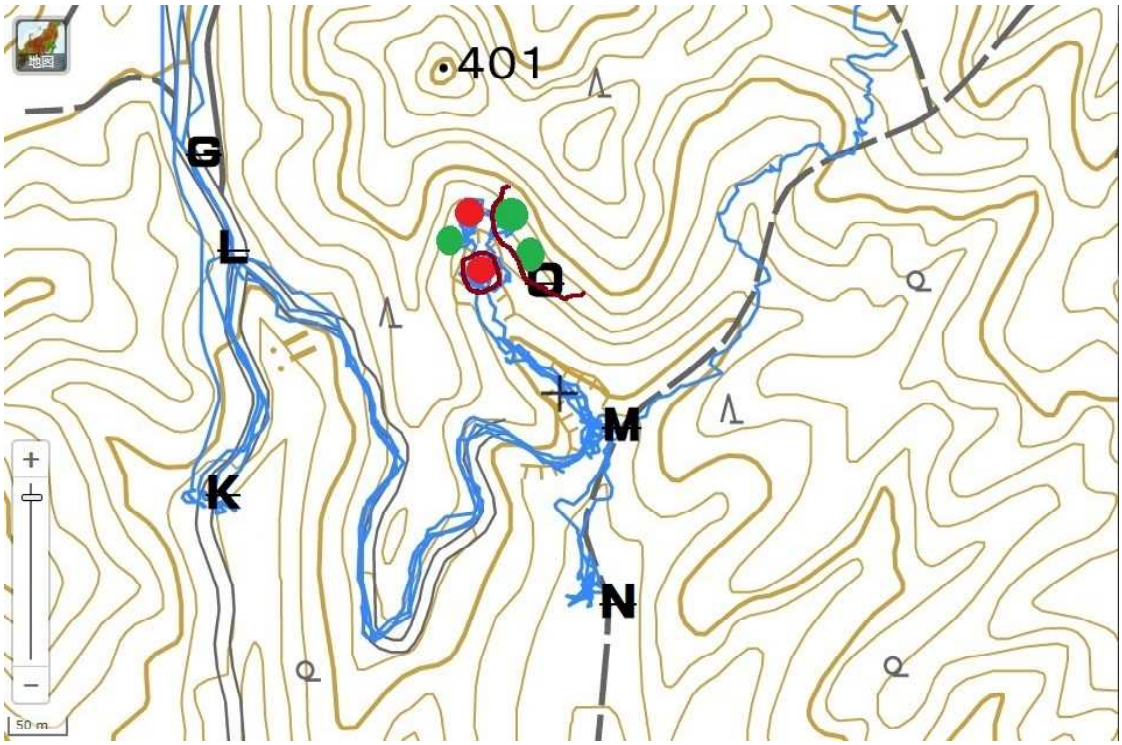

図４　図３の部分拡大図。Ｌ点から林道に入る。林道は手入れされていないが、幅は広く平坦であるので歩くのに問題はない。Ｍ点が生きている林道終端。先は沢に繋がり、林道は消滅。写真３を参照。Ｍ点から下流に１０年前にはなかった、幾つかの砂防用石垣が設置されていた。Ｏ点にはいくつもの鉱山跡を確認した。黄緑丸が坑口跡、茶色線は施設されている有刺鉄線、上の赤丸は社跡、下の赤丸はコンクリート施設跡。

鉱山跡写真

南側鉱山跡

写真１　前方のカーブの所がＫ点。車が止まっている。

写真２　Ｌ点付近。舗装道路から前方中央にある「捨てられた林道」に入っていく。

写真３　Ｍ点付近である。林道は無くなり、なだらかな沢にでる。付近一帯がズリ跡のような様相となっている。

写真４　Ｍ点から沢の上流のＯ点方向を向いている。この広くなだらかな沢を登っていくと、Ｏ点に達する。

写真５　Ｍ点から下流に下り、Ｎ点当たりから上流を見上げている。１０年以上前には無かった砂防用石垣擁壁が何カ所にも設置されていた。

写真６　Ｏ点付近で確認したコンクリート製の鉱山施設跡。図４中のＯ点付近の下の赤丸。周りは「新しい」有刺鉄線で囲われていた。有刺鉄線は「新しい」いので、施設年はそれほど昔ではない。

写真７　Ｏ点付近の登り上がった当たり。広い領域が有刺鉄線で囲われている。赤輪の所の黒い部分が坑口跡の１つ。既報の写真と対照できよう。柵の柱の色違いに設置の年月差がわかる。

写真８　結構長く有刺鉄線が敷かれている。「露天掘り」の跡なのか、有刺鉄線の前方は長く深い掘り込み跡となっている。

写真９　図４のＯ点付近の上の赤丸の所に、大きな灯籠２基が左右に鎮座していた。その間には石垣階段。その奥には「社」があったのかも知れないが。確認できなかった。設置場所から本鉱山の繁盛などを祈願したものであろう。

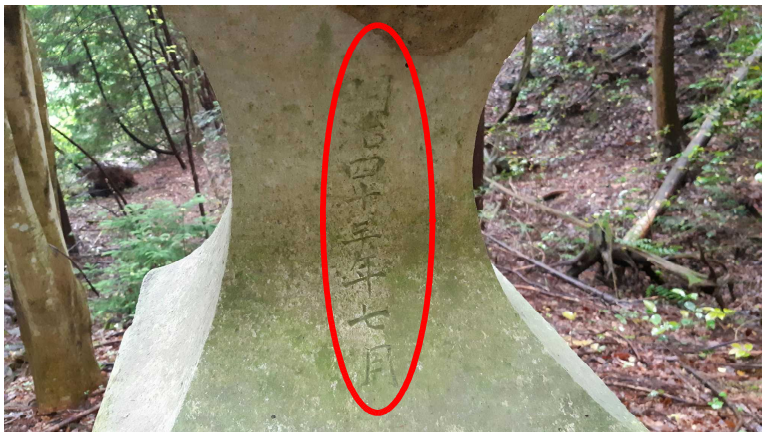

写真１０　石灯籠の背面にあった「明治四三年七月」の刻印。

写真１１　社跡に向かっての左側に坑口跡を確認。赤輪の箇所。

写真１２　その入口。コンクリートブロックで確りと閉塞されていた。

北側鉱山跡

写真１３　Ａ点付近。４６１号を西行して来ている。赤線のように左折する。

写真１４　左折してから、直進していくと直ぐに墓地の駐車場らしき所に行き着く。図２のＣ点。ここに駐車でき、前方に延びている林道を進んで行く。右手の赤輪の所に「小さい沢」があり、次の写真の石垣組がある。

写真１５　石垣が銅の２次鉱物である水色の「孔雀石」がこびり付いた岩石等からなっている。孔雀石の出来方形状から、銅鉱物を処理した建物等の基礎であったのかも？　一見の値があろう。

写真１６　Ｄ点付近の林道脇ににあったコンクリート建物跡。林道を挟んだ対面には石垣擁壁のある広いプラトーもある。これらの位置を図３の２つの赤丸で示している。

写真１７　林道を少し登って、写真１５のコンクリート建物跡を俯瞰した様子。既報では、この付近で幾つかの坑口跡を確認したことになっている。が、０年を経た現在、完全に忘却の彼方となっている。今回、再確認に努力したが、草木が生い茂っていることもあり、再確認できなかった。見通しがきき、歩きやすい、草木の枯れた時期に再来した方が良さそうである。

写真１８　Ｅ点付近で林道脇で確認した坑口跡。

写真１９　その入口から内部を覗く。

付記
（１）既報では北側の十字記号付近で「～何カ所に坑口跡があり・・・」の記述がある。今回のＤ点付近に相当している。その坑口跡を今回探したが、探し出すことが出来なかった。梅雨時期であり、草木が生い茂っており、見通しが全くきかないのである。草木の枯れた時期に再訪してみようか。

（２）写真１５で示している石垣部の「大量の孔雀石」の存在は、何を物語っているのであろうか？
　近傍に良好な銅鉱脈、そして坑口等が存在していたことを物語っていることは確実であろう。石垣への孔雀石の付き方から判断すると、この石垣の上に銅鉱石が貯鉱されていたのかも、或いは鉱石の処理施設があったのかも。

（３）やはり、「日光鉱山鉱山図」が見たいものである。

(9) 天頂（てんちょう）鉱山跡

鉱山の所有者は良く変る。その度に、同じ鉱山なのに呼称も変ることがある。この鉱山は、「栃木鉱業所栃木坑」、又は「天頂鉱山」、又は「栃木鉱山」と呼ばれていたらしい。主要鉱物は黄銅鉱、黄鉄鉱、希に方鉛鉱、閃亜鉛鉱。位置は東経１３９．８１４１°＝１３９°４８′５１″、北緯　３６．７７９３°＝　３６°４６′４５″、高度＝２９８ｍ。地形図中の上の十字である。広い原っぱである。現場は広い原っぱ状態である。原っぱの南側に幅の広いズリ面がある。鉱物ズリは少ない。その中央付近には鉱石排出用のコンクリート施設が未だに残っている(写真)。多分このコンクリートの内部に坑口があるのであろう。確かめてはいない。山を挟んだ南側の舗装された道路脇に「通洞坑」がしっかりと残っている(写真)。この通洞坑から鉱石を排出し、その前に広がる平らな土地で選鉱していたらしい。

(10) 日光（にっこう）鉱山跡

地形図中の下の２箇所の十字である。この鉱山も他名称がある。「栃木鉱業所日光坑」である。主要鉱物は天頂鉱山と同じで、黄銅鉱、黄鉄鉱、希に方鉛鉱、閃亜鉛鉱である。多分鉱脈は同じなのであろう。日光鉱山は山の南北に廃坑口がある。北側のズリはあまり大きくなく、木々の下になっている。が、南側のズリは広大であり、下草も生えていないので開放状態である。のんびりとズリ探しが行える。北の十字位置は東経１３９．８２２３°＝１３９°４９′２０″、北緯　３６．７６５６°＝　３６°４５′５６″、高度＝３１８ｍ。何カ所かに坑口跡があり、小さな鉱物ズリもある。南の十字位置は東経１３９．８２２６°＝１３９°４９′２１″、北緯　３６．７５９９°＝　３６°４５′３６″、高度＝２５４ｍ。広大なズリの真ん中である。殆どは捨てズリであり、好物ズリは少ない。が、探し回れば、鉱物ズリは拾えよう。坑口跡は、十字の辺りから北北西方向の沢を登り詰めたところにある。進入禁止の柵で囲まれている。大規模な坑口であったようである。一体はズリのようであるが、めぼしいズリは少ない。

日光鉱山には山の北と南の２箇所に坑口跡有り

地図　　国土地理院２万５千分の１地形図「玉生」
探査日　　２００９年３月、その他の日
参考文献
（１）「日本地方鉱床誌　関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、昭和４８年。

鉱山跡写真

広い範囲に捨てズリがある。が、めぼしい鉱物ズリは少ない。

天頂鉱山の採鉱所跡のコンクリート施設。

舗装道路脇にある通洞坑

日光鉱山の北側にある坑口跡の一つ

日光鉱山の南側にある広大なズリ。が、めぼしい鉱物ズリは少ない。

日光鉱山の南側の坑口跡。金網柵で、立ち入り禁止。この柵内に坑口跡がたくさんありそう。

採集鉱物写真

品名　　南側で黄銅鉱か黄鉄鉱、北側で銅の２次鉱物（黄緑＝クジャク石、空色＝？）
　　大した採集品ではないので当分、未掲載